

■ カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

<美術学部 美術学科>

文星芸術大学は、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に掲げた学修成果を得るために、教育課程を「教養科目」、「共通基礎科目」、「専門教育科目」、「資格取得科目」の科目区分により教育課程を編成する。授業は、講義、演習、実習、実技のいずれかの方法によって行う。教育内容・方法、学修成果の評価の在り方は以下のように定める。

【教育内容・方法】

- ・ 多様な入学者に対する初年次教育として「共通基礎科目」を設置する。所属の専攻を軸としながら、美術の広い世界を理解し、基本を身につけることを目的とする。1年次終了時において、「転専攻制度」により、専攻の変更も可能である。
- ・ 2年次以降の専門教育科目では、所属専攻の専門的なスキルと知識を学ぶ。デザイン専攻では、専門分野に分かれて基礎技術を身につけるところから始める。マンガ専攻では、マンガ表現のなかで必要な様々な基本要素をまず学ぶ。総合造形専攻では様々な画材による平面表現、立体表現、歴史や理論を学ぶ。専門教育科目では、各専攻の独自性を生かしながら、地域・産業との連携課題を取り入れることで、実社会との関わりを意識させ、美術・デザイン・マンガで社会的ニーズを解決する教育も行う。
- ・ キャリア形成科目として「キャリアデザイン」を設け、学生の職業観を養い、就労意識を高めるよう考慮していく。「インターンシップ」も科目として設定し、学外での研修を進路選択に役立てる。社会での実体験は大学での学修成果向上の効果も期待できる。また、入学時ガイダンス、初年次教育、年に2度の担当教員との面談とともに、学生一人一人に「文星ポートフォリオ」を作成させ、3年次からのゼミ制度、各種キャリア支援まで含めた一貫性のある意識形成のプログラムとして、本学で学ぶ美術・デザイン・マンガが自らの人生と社会のためにどう活かすかについて指導する。

【学修成果の評価】

- ・ 学修成果は、教育課程編成の方針に基づき設定した科目ごとにシラバスに明示した到達目標に従い評価する。
- ・ 具体的な評価方法は、科目ごとのシラバスに明記する。実技科目では作品評価はもとより、プレゼンテーション、共同作業、自己管理能力なども評価の対象となりうる。成績評価の可視化を高める目的で、それらの評価割合もシラバスに明記する。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

《大学院 芸術研究科 美術専攻》

＜博士前期課程＞

文星芸術大学院博士前期課程では、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）で示す能力を身につけることができるよう、教育課程を編成し実施します。

【教育内容】

- ・ 広い視野を獲得し、高度の専門性を高める領域編成。
- ・ 学部教育を土台に主軸となる専門分野への深化を図り、更に高度の専門性を有した応用・発展へと展開する教育研究を実施する。
- ・ 専門分野の知識、技能を高度に深化させ、研究能力、表現能力及び発信能力を養成する科目を設置する。

【教育方法】

- ・ 指導教員、副指導教員の指導、助言を中心に学生による能動的な学修を行う。
- ・ 修士論文等の作成と発表を指導する。

【評価方法】

- ・ シラバスに明示した成績評価基準に基づき、厳格な成績評価を行う。
- ・ 研究科の定める評価基準に基づき、修士論文等の審査及び試験を適切に実施します。

＜博士後期課程＞

文星芸術大学院博士後期課程では、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）で示す能力を身につけることができるよう、教育課程を編成し実施します。

【教育内容】

- ・ 新しい造形芸術あるいは新しい研究の担い手の養成の場として、芸術表現の制作・理論について研究領域に新しい展開が生まれる教育の実施。
- ・ 研究領域分野に関する幅広い視野と見識を養い、芸術理論及び歴史等の教育・研究も包括し、博士論文作成に関する基本的な知識と技術を学修する科目を設置する。

【教育方法】

- ・ 指導教員、副指導教員の指導、助言を中心に学生による能動的な学修を行う。
- ・ 論文作成に係る研究指導体制等により、専門知識、制作能力及び研究方法を備え、自立して研究を遂行できる能力を育成します。

【評価方法】

- ・ シラバスに明示した成績評価基準に基づき、厳格な成績評価を行う。
- ・ 研究科の定める評価基準に基づき、博士論文の審査及び試験を適切に実施します。